

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		令和 7 年度第 1 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)		小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時		令和 7 年 4 月 2 4 日 (木) 1 5 時～1 7 時		
開 催 場 所		メタウォーターサステナブルパークこがねい		
出席者	委 員	<出席者：1 3 名> 渡辺会長・岡山副会長・溝入委員・岸野委員・光明委員・中村委員・橋爪委員・林委員・平川委員・多田委員・長友委員・石原委員・井上委員 <欠席者：2 名> 清家委員、保谷委員		
	事 務 局	今井ごみ対策課長・立崎減量推進係長・竹内清掃係長・高橋施設係長・川端主任・菊地主事		
	計 画 策 定 支 援 受 託 者	パシフィックコンサルタンツ株式会社 米田管理技術者、野末担当、立野担当		
傍聴者の可否		可	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第		1 開 会 2 報 告 3 議 題 (1) 小金井市一般廃棄物処理基本計画等について (2) その他		
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料		別添のとおり		
そ の 他				

渡辺会長	これより令和7年度第1回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。
立崎減量推進係長	(配付資料確認) (会議録)
中村委員	次回から資料番号をつけていただきたい。
事務局	資料番号を記載した審議会資料とする。
渡辺会長	P8の仮置場に関する発言は岡山副会長の発言ではないか。
事務局	確認する。
今井ごみ対策課長	審議会委員の辞任と委嘱について、集団回収実施団体より参加いただいていた北村委員が一身上の都合により辞任することとなった。同推薦団体より新たにご推薦いただいた平川委員を新委員として4月1日付けで委嘱させていただいた。
平川委員	～自己紹介～
今井ごみ対策課長	(清掃関連施設整備事業について報告)
渡辺会長	年間の環境イベントスケジュール案について、4月はメタウォーターサステナブルパークこがねいでの開催とあるが、それ以外は別場所での開催か。
今井ごみ対策課長	基本的に5月以降のイベントは小金井市野川クリーンセンターでの実施を予定している。
渡辺会長	メタウォーターサステナブルパークこがねいは随時見学可能か。

今井ごみ対策課長	随時可能だが、現状、親子連れや団体からの申し込みを多くお寄せいただいている。日程によっては説明員を配置できない場合がある。
今井ごみ対策課長	(令和7年度家庭生ごみ資源化(堆肥化)モデル事業について報告)
井上委員	拠点回収について立ち会いをする人はいるのか。
今井ごみ対策課長	委託業者の立ち会いの元、内容物の確認をする予定であるが、当面は直営職員も立ち会い、履行状況を確認していく予定である。
中村委員	平日よりも休日の方が利用しやすい市民が多いのではないのか。あるいは休日のみ料理をする家庭も想定されることから、日曜日の夕方や月曜日の朝に回収する方が、利点が多いのではないのか。
今井ごみ対策課長	月曜日の回収を検討したところであるが、受入れ先の運転状況等の事情やモデル事業参加者からのご意見等も踏まえ、毎週木曜日午前9時から午前10時での実施となった。
中村委員	今後の本格的な実施に当たっては、実施曜日の拡大や回収場所の拡大等を考えているのか。
今井ごみ対策課長	理想としてはそのとおりだが、禁忌品が多く搬入されてしまう等の課題も考えられるため、今後徐々に認知度向上を図りつつ、投入管理ができる範囲での拡大について検討をしていきたい。
渡辺会長	戸別回収については、効率的に回収場所を増やすなら、現在参加されている世帯の近所に声を掛ける等が考えられると思う。
今井ごみ対策課長	現在参加されている方からどこまでご協力いただけるかだと考えている。現行の投じている費用の中でどこまでやれるか

	を見ながら検討していく形になると思う。
岡山副会長	今回の実施は戸建て住宅が対象ではあるが、今後検討するにあたり居住形態別での課題もそれぞれ出てくると思う。
今井ごみ対策課長	おっしゃる通り、集合住宅でも実施すべきとのご意見も頂いている。 排出形態等もそれぞれ異なるので、集合住宅での実施についてもモデル事業から開始し、課題への対策を講じたうえで展開をしていきたいと考えている。
中村委員	生ごみを焼却処理するのと直接資源化するのではコスト的にどちらが高いのか。
今井ごみ対策課長	単純なコスト比較は難しい。浅川清流環境組合の施設整備費等のコストも加味すれば焼却の方が高くなるが、処理の安定性の面では焼却の方が継続的かつ適正に処理できるというメリットもある。行政としては、コスト面だけで比較・判断することにはならない。
中村委員	市民にとっては燃やすごみの収集袋の購入にお金がかかるので、生ごみを無料で出せるのであれば、コスト面でインセンティブをつけることもできるのではと思う。 また、コストに差があるようであれば、直接資源化の方がコストも安くCO₂も削減されるというメリットをアピールできるのではと考えた。
今井ごみ対策課長	市が実施している資源化施策について、分別徹底による経済的インセンティブの付与等も含めて、改めて周知強化を図る必要があることは認識している。CO₂削減の効果としては、令和5年10月より市指定の家庭系ごみ収集袋の素材をバイオマス由来のものに変えたところ、87,000kgの削減に貢献したところである。 今回生ごみ資源化モデル事業により民間処理施設での資源化処理を実施し、収集運搬効率等も高めたところ、89,000kgのCO₂削減に貢献できるとの試算も出ていることから、

平川委員	今回の施策は環境面では大きく貢献できていると考えている。
今井ごみ対策課長	保育園には以前生ごみ処理機があったが、現在は撤去され、生ごみは焼却処理されているということなのか。
立崎減量推進係長	保育園では、令和５年度まで生ごみ処理機で乾燥処理をしていたが、令和６年度からは、民間処理施設で生ごみを直接資源化している。小学校も令和７年度から同民間処理施設にて生ごみの直接資源化を開始したところである。
策定支援受託者	(各計画策定に向けたスケジュール(改定案)、審議会資料事前質問回答について説明)
策定支援受託者	(小金井市一般廃棄物処理基本計画 骨子案について説明)
林委員	P 2 2 ・ 2 3 の目標はどれが国の計画の目標で、どれが都の計画の目標が分かるように記載してほしい。
策定支援受託者	記載方法を改める。
岸野委員	アンケート集計結果に係るグラフ等の文字が小さいので大きくしてほしい。また、余白が多い部分も修正いただきたい。
策定支援受託者	記載方法を改める。
中村委員	P 1 5 図 1 3 の総資源化率について、資源化量が平成 2 9 年度から減少している理由についての考察を入れた方が良いのではないか。市場買取価格の上昇が影響しているのか。それとも単純に資源化率が減少しているのか。
渡辺会長	新聞の購読量の減少も影響しているのではないかと。
岡山副会長	P 1 7 の集団回収量についても同様の減少傾向が見られるため、この減少量も影響しているのではないかと。
高橋施設係長	資源化量でいうと、ごみ排出量が減少しているので、それに

	伴って資源化量も減少している。資源化率については複雑にはなるが、先ほどの会長、副会長のご発言にもあった、新聞等の紙類の増減や野川クリーンセンターの本格稼働に伴う資源化ルートの変更等で、減少していると考えている。
今井ごみ対策課長	補足させていただくと、社会的な情勢でデジタル化が急速に進んだことも理由に挙げられる。 毎年、環境省が実施している廃棄物処理実態調査報告では、資源化率の部門で令和５年度小金井市は全国４位を堅持しており、トップとも僅差の状況につけている。全国的に見ても決して小金井市の資源化率が低いというわけではない。
中村委員	P１５の見せ方として、グラフだけだとマイナスの印象を与え兼ねないので、実績や傾向に対する考察を記載してほしい。
今井ごみ対策課長	策定支援受託者と協議・調整のうえ検討する。
石原委員	ごみ量はP５の人口動態に連動すると思うが、武蔵小金井駅北口や東小金井駅南口の開発等を加味すると、人口はもっと増えるのではないかと。ピークは令和１２年度よりも後ろに来るのではないかと。
今井ごみ対策課長	市企画政策課が推計している推計資料を用いている。どのような前提条件で推計をしているのかは確認するが、以前、不動産関連の方と話をした際、新しい集合住宅を建てても、市内転居が約７割を占めていると言われていたと記憶している。また、市外からの転居については、戸建住宅を購入される方が多いとも言われていた。また、開発の動向を考慮すべきというご意見と受け止めるが、一方では空き家が増えている状況もある。 この推計ではこうした市場的な情報は加味されないのではないかと考えている。行政内部の他計画とも整合を図る必要があることから、同じ数値を用いるという方針についてはご理解いただきたい。
渡辺会長	目標値は１人１日当たりで考えることとしており、人口には

林委員	左右されないものとなっている。 施策体系はどのように考えているか。P 6 から処理体制について細かく書いているが、処理計画の内容を基本計画に盛り込むと、基本計画の方の記載の自由度が無くなってしまうのではないか。スケジュール案を見ると、施策については今後提示される予定であるが、この計画のどの部分に盛り込むのか。 現行計画の目標値は達成されているが、今後にどう繋げるのか。資源化率の評価も含めて考えるべきではないか。 処理経費については、1 人当たりで見ると浅川清流環境組合の施設の竣工前の水準に戻っている。市としての対策がやりすぎとは思っていないが、コスト面も踏まえ各施策の再確認が必要ではないか。 課題の記載方法について、「求められる」「望ましい」などの記載は市の計画の記載としては第三者目線に感じてしまう。市のごみ処理行政が転換点を迎えたとの認識があるのであれば、見直せるものは見直し、盛り込めるものは盛り込むことが必要ではないか。
今井ごみ対策課長	施策体系は今後の検討となる。P 3 5 までは現状の課題分析を行っている。今後の展開については、P 3 6 の基本方針等を踏まえて施策に盛り込む予定であるが、処理計画よりも幅を持たせた記載としたいと考えている。 目標値については今後の検討となる。また、課題の表記については市としての表現に記載方法を改める。
溝入委員	P 2 0 のごみ処理経費が気になる。長い間他の多摩地域よりも高い状況が続いているので、小金井市としての今後の取り組み姿勢等について言及する必要があるのではないか。 将来的に経費削減を目指すのか、経費をかけてでもごみ減量を強化していくのか等の方針を、行政として可能な範囲で明記すべきである。
今井ごみ対策課長	令和 3 年度以降は清掃関連整備事業等に係る建設費や設備投資費用がごみ処理経費として計上されているため、多摩地域よりも高い数値となっており、令和 2 年度の数値が本市の標準

	的数値と考えている。 一方で、浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設の減価償却費の支払や収集運搬費用の適正化等もあり、今後どこまで下げられるかについては、現時点では申し上げられる状況にはない。
岡山副会長	ごみ処理経費には市民が払うごみ処理手数料は入っていないのか。
今井ごみ対策課長	ごみ処理手数料はここには含んでいない。また、1か月のごみ処理手数料が500円収まるような料金で設定させていただいているため、特段高い訳ではない。
岡山副会長	今回の計画のポイントは「現行計画の改定」であるため、現時点で目標値を達成しているところを確認して、今後さらに厳しい減量計画とするのかどうかについて考えるべきである。 また、P22、23の記載順序は「排出量、焼却量、総資源化量」の順で表記した方が良い。P23の(3)、(4)は分かりやすくするため、計画ごとの多少の表現の違いは気にせず、まとめてリサイクル率等として表記してほしい。 P38の図45はリユースの表記に誤りがあるので変更した方が良い。
今井ごみ対策課長	P22、23についての記載方法は変更する。 P38の図45の記載方針は検討し、修正する。
橋爪委員	P26について、今回のアンケート集計結果の所感について、過去のアンケートとの比較も記載するべきではないか。
渡辺会長	アンケートの詳細結果については、最終的には付録のような形で公表されるのか。
策定支援受託者	過去の結果との比較は今後実施する予定であり、アンケート結果全体は資料編として掲載する予定である。
渡辺会長	第4章の目標値の設定について、具体的な数値設定の方針については決まっているのか。

今井ごみ対策課長	目標値については、令和6年度のごみ量実績が出ておらず、具体的な方針について検討は進めているが、現時点で申し上げられる状況にはない。
策定支援受託者	(小金井市一般廃棄物処理基本計画等策定支援委託 組成分析調査計画書について説明)
策定支援受託者	(小金井市災害廃棄物処理計画について説明)
中村委員	災害時のし尿の処理について、マンホールトイレを活用することは可能なのか。
事務局	マンホールトイレの整備は市内公立小中学校全14校中13校で完了している。他にも梶野公園や、都立公園等にも整備されている。
岡山副会長	P14～P16が一番大事なところである。この災害廃棄物処理計画は「災害時、ごみをどこに出すのかというのを事前に考えておく」ということを整理するものである。 また、発災初動期には携帯トイレが活用されることが望ましい。ごみ対策課としては発生する使用済みの携帯トイレをどのように処理していくのか、平時から検討が必要である。
今井ごみ対策課長	災害時の受入れ体制としては関係各所とあまり協議ができていないのが現状である。今回災害廃棄物処理計画を策定する中で、具体的な処理体制の構築を目指していきたいと考えている。
立崎減量推進係長	次回の審議会は令和7年6月26日(木)14時から、次々の審議会は令和7年7月30日(水)14時から、それぞれ野川クリーンセンターでの開催を予定している。改めて周知する。
渡辺会長	以上をもって審議会を終了する。

